素直さと根性

先月、成績を上げるためには「目的意識」を持つことが大切だということを書かせていただきました。今月も引き続き、「成績を上げるために必要なこと」について書きたいと思います。今月は性格についてです。

もう十年ほど前でしょうか、新聞のインタビュー記事で、女子プロゴルファーの福嶋晃子選手が、「一流選手になるにはどんな資質が必要ですか。」と問われて、「素直さと根性です。自分にはこれがあったと思います。」と答えているものがありました。「根性」ということならばよく耳にもしますし、必要なのは誰もわかっていると思います。私にはこの「素直さ」という言葉が大変新鮮に響き、心に残りました。

そしてこの夏。北京オリンピックで偉業を成し遂げた北島康介選手。彼の人となりを紹介するエピソードに、やはり「素直さ」を感じさせられました。彼は超一流のスイマーとなった後でも、昔のクラブの恩師からアドバイスを授けられると素直に耳を傾けたといえます。

もちろん、「素直さと根性」さえあれば誰もが一流になれるというものではないでしょう。才能も運も必要であるにちがいません。しかし、人が向上していくためには「素直さと根性」が絶対に必要であるということ、私も長年の塾経験から実感しています。

指導をしていて一番大変なのは、わからない問題を理解させるのではなく、いかにこちらの指示を守らせるかということなのです。“教わりに来ているのだから素直に教わったとおりにやっているでしょう”と親御さんは思いがちですが、実はそのようにできるのはほんの一部の子です。教わった通りにやらない、やろうと努力できない子がほとんどなのです。そこで一つの計算式をマスターさせるのに当塾では一ヶ月あまり根気よく目をかけ手をかけます。しかし問題はその後です。私に見られていなくてもそのやり方を守っている子は着実に力をつけていきますが、私の目が離れると途中式を省略するなど自分勝手なやり方を始める子は結局きちんと身につけられずミスを繰り返します。これではいくら塾に通っても成績は上がりません。

学校での態度も成績にすぐにつながります。先生の指示を守らなかったり、先生のことを嫌いだとか、ムカつく等と言っているようでは、自分のことを正しく評価さえしてもらえません。論語の昔からそうですが、学ぶことは先人（先生）より教えを乞うことです。自らの未熟さを認識していなければ何も身につかないのです。結局は、先生（大人）に対して素直で謙虚な気持ちを持ち、課題（授業）に対して誠実に臨む人が成績を上げていくことができるのです。